

劣化ウラン兵器禁止を訴える国際大会

(広島：二〇〇六年八月三―六日)

嘉指 信雄

■ICBUW＝「ウラン兵器禁止を求める国際有志連合」の結成

劣化ウラン兵器禁止を目的とした国際的キャンペーンが始まったのは、二〇〇三年一〇月中旬。世界8カ国から平和活動家や専門家など約三〇名がベルギーのベルラールに集まった。ブリュッセルから汽車で一時間程のところにある小さな町ベルラールは、聞けば、第一次世界大戦の激戦地イーパーもそんなに遠くなく、フランドル地方の「ラディカル平和主義」の伝統が息づいていて、第一次大戦戦没者を慰霊する「平和マラソン」が毎年行われるとのこと。ベルラール会議も、出版会社の経営から引退したばかりのデ・フォンス氏が自邸を提供してくれることで可能となった。

3日間の議論の結果、ICBUW＝The International Coalition to Ban Uranium Weaponsの設立が宣言され、ウラン兵器の全面的禁止、汚染地域の除染、および被害者への補償を目指す「国際キャンペーン」への参加を呼びかける「ミッション声明」が採択された。

今までに20カ国から80を越える団体が

賛同を表明している。「IPPNW」核戦争防止国際医師会議「ドイツ支部及びスイス支部、WILPF「平和と自由を求める国際婦人連盟」フランス支部などに加え、日本からもNODUヒロシマ・プロジェクト／ヒバク反対キャンペーン／核兵器廃絶をめざすヒロシマの会／京都反核医師の会／劣化ウラン兵器禁止・市民ネットワーク／原水禁国民会議／広島県高教／大阪保険医協会など約20団体が呼びかけ・賛同団体として加わっている。

「国際社会による被害者支援」の規定も含む「ウラン兵器の全面的禁止条約」の締結などを目ざし、インターネットでの「オンライン国際署名」も開始されている。(詳しくは、ICBUW ホームページ <http://www.bandedpleteduranium.org/>)

■劣化ウランヒバクシヤの声を、ヒロシマから世界へ！

ICBUW 第二回国際大会は、今年八月、広島で「劣化ウランヒバクシヤの声を、ヒロシマから世界へ！」のテーマの下、

次のような日程で開催される。

八月三日 全体会議 (広島国際会議場)

同時通訳)

四日 全体会議 (広島国際会議場)

同時通訳)

五日 分科会 (賛同団体などの共催)

六日 午前・平和式典／午後・短い

閉会セッション／夜・灯籠流し・お別れ会

今回の大会では、(1) イラクをはじめ世界各地からウラン兵器の被害者を被爆地・広島に迎え、ウラン兵器の全面禁止と被害者への支援と補償を求めるアピールを、被害者とともに国際社会へ改めて強く発信したい。(2) また科学者、専門家なども招聘し、ウラン兵器による環境汚染と健康被害の問題、全面的・明示的禁止をめざす「禁止条約」締結に向けての戦略などについても、議論を深めたい。(3) さらに、日本を含む世界各国での様々な動きや取組みについて相互理解を深めることにより、世界の仲間とのネットワークを強め、国際キャンペーンを大きく前進させるためのステップとしたい。「詳しくは、「NODUヒロシマ・プロジェクト」ホームページ (<http://www.nodu-hiroshima.org/>) を参照」

■子どもたちを救おう！ 地球を救おう！ 劣化ウラン兵器を禁止しよう！

今回の大会には、世界各地で闘い続けてきている多くの被害者、専門家、活動家、ジャーナリストなど、30名を越える方々が、私たちの呼びかけに即座に応え、はるばる広島の地に来て来て来ることを約束してくれている。それはひとえに、被爆地ヒロシマに集い、今一度、声を一つにして、劣化ウラン兵器問題への世界的取り組みを訴えることに、測り知れない意義と可能性を感じているからに他ならないからだろう。こうした大きな期待に応え、今回の「NO DU ヒロシマ大会」を成功させるため、一人でも多くの方のご参加・ご協力を心より願っています。次第である。

■賛同カンパの呼びかけ

今回の大会の開催にあたっては、海外ゲスト招待、会場費、同時通訳などのため、かなりの経費（五〇〇万円以上）が必要となりますが、ホスト国として日本側でその大部分をまかなわなければなりません。今回の国際大会開催の趣旨をご理解いただき、賛同・カンパを心よりお願いいたします。

国際大会賛同カンパ

団体 一口五、〇〇〇円
個人 一口一、〇〇〇円

（多数口、大歓迎！）

振込先：郵便振替口座名「ICBUW・国際キャンペーン」

国際キャンペーン

口座番号：013100083069

備考欄に「国際大会賛同カンパ」と明記ください。（賛同リストへの匿名掲載を希望される方は、その旨お書き下さい。）

■海外参加者リストより

イラク

☆ジャワッド・アル・アリ博士・バスラ教育病院・がんセンター所長、

☆スアード・アル・アザウイ博士・環境工学、マムーン科学大学副学長、元バグダッド大学助教授、「核のない未来賞=Nuclear-Free Future Award」を二〇〇三年受賞。

北アメリカ

☆ハーバート・リード元軍曹・米陸軍省に対し、劣化ウラン被害を理由に補償を求めている9名のイラク戦争帰還兵のうちの一人。

☆ロザリー・バーテル博士・計量生物学、「公衆衛生を憂慮する国際研究所」創設者：「もうひとつのノーベル賞」と

も言われる「正しい生活賞」、世界連邦主義者平和賞、国連環境計画グローバル五〇〇賞など5つの賞を受賞。著書に『戦争はいかに地球を破壊するか―最新兵器と生命の惑星』など。

☆キース・ベイヴァーストック博士（フィンランド）・クオピオ大学環境科学部教授、元・WHO 欧州地域・放射線専門官（一九九一―二〇〇三）。担当した劣化ウラン問題についてのレポートが圧力により発表できなくなり、WHOを去った。

☆フィリップ・モンタペルト大尉（イタリア）・DU被害者。爆発物処理・除去作業班メンバー。「オッセルヴァトリーオ・ミリタレ（ミリタリー・ウォッチ）」メンバー。

（かざしのおお、「NO DU（劣化ウラン兵器禁止）ヒロシマ・プロジェクト」代表）

